

令和5年度

山形県議会広報・広聴委員会報告書

令和6年3月12日

山形県議会広報・広聴委員会

目 次

1	協議の経過及び結果について（概要）	1
2	令和5年度議会広報・広聴事業実績	2
3	令和6年度議会広報・広聴事業計画	7
4	山形県議会広報・広聴委員会委員名簿	10

（参考資料）

○	令和5年度議場演奏会の実施状況について	11
○	令和5年度生徒・学生と県議会議員との意見交換会の実施状況について	15

1 協議の経過及び結果について（概要）

山形県議会広報・広聴委員会は、県議会の活動状況を広く県民に伝えるとともに、県民の声を広く聴き、県民に県議会を身近に感じてもらうための取組みを進めるため、今年度6回の委員会を開催した。

委員会では、広報誌の編集やテレビ広報番組の企画、「議場演奏会と議会見学会」、「県議会ギャラリー」、「生徒・学生と県議会議員との意見交換会」の実施方法等について協議を重ねながら、多岐にわたり県議会の活動に関する広報・広聴の充実に努めた。

今年度は、新型コロナウイルスが感染症法上の5類へと移行し、社会経済活動の正常化が進む中、議場演奏会の一般公募を再開し、議会見学会を併せて開催するなど、議会広報活動の強化を図ったところである。

来年度の広報・広聴事業の方針等については、今年度県民から多数の応募があった「議場演奏会と議会見学会」の開催を継続するとともに、より効果的な情報発信の在り方や時代に即した手法について引き続き検討していく必要がある。また、山形県議会女性・若者参画推進会議の提言を踏まえ、女性や若者に県議会を身近に感じてもらい政治に関心を持ってもらう取組みについても検討が必要である。

今後とも、開かれた県議会を目指し、議会の活動状況を広く県民に伝えるとともに、県民の意見を広く聴くための方策について、調査・検討を深めていくことを希望するものである。

2 令和5年度議会広報・広聴事業実績

1 広報誌等

(1) 「県議会だより」の発行

県民に議会活動の概要を伝えるため、年6回発行し、県広報誌「県民のあゆみ」に合冊して全戸配布（約40万部）した。

号	発行日	主な掲載内容
第96号	令和5年5月1日	令和5年2月定例会の概要、3特別委員会における議会政策提言
第97号	令和5年7月1日	新議員の紹介、令和5年5月臨時会の概要、トピックス
第98号	令和5年9月1日	令和5年6月定例会の概要、トピックス
第99号	令和5年11月1日	令和5年9月定例会の概要、トピックス
第100号	令和6年1月1日	議長の新年の挨拶、決算特別委員会の概要
第101号	令和6年3月1日	令和5年12月定例会の概要、トピックス

(2) 「県議会やまがた」の発行

県民に議会活動を詳細に伝えるため、定例会ごとに年4回・各3,500部発行し、市町村、県内主要団体、NPO法人、大学・短大等へ配布した。

号	発行月	主な掲載内容
第41号	令和5年5月	令和5年2月定例会の概要、新議員の紹介
第42号	令和5年8月	令和5年5月臨時会・6月定例会の概要
第43号	令和5年11月	令和5年9月定例会の概要
第44号	令和6年2月	令和5年12月定例会の概要

(3) 若者向け広報紙「県議会ナビ」の発行

高校生を中心とした若者に県議会を身近に感じてもらい、県議会に対する興味を持ってもらうため、38,000部を発行、県内の高校・大学等へ配付。なお、山形大学公認フリーペーパーサークル「Y-a i ! (ヤイ)」に協力を依頼し、若者の感性を生かした紙面構成とした。

号	発行月	主な掲載内容
第8号	令和5年10月	・山形大学学生と県議会議員との座談会 ・山形大学学生による傍聴体験レポート等

(4) 「県議会のしおり」の配布

議会の役割、活動内容の周知を図るため、「県議会のしおり」を議事堂見学者等に配布した。

また、視覚障がいのある方向けに作成した点字版「県議会のしおり」についても、議事堂見学者への配布や県議会ロビーに備え付けるなどして活用した。

2 議場演奏会と議会見学会

県民に県議会を身近に感じてもらい、県議会に対する理解と関心を深めてもらうことを目的として、「議場演奏会と議会見学会」を開催した。

今年度4年ぶりに参加者の公募を再開し、過去最多の170名の応募があった。

■ 開催概要

- ・開催日 令和5年9月27日(水)
- ・応募総数 170名(抽選により137名に入場券を送付)
- ・参加者 118名
- ・実施内容 予算特別委員会の傍聴、議場見学、県議会の概要説明、議場における山形交響楽団による弦楽合奏の鑑賞

3 県議会ギャラリー

より多くの県民から県議会へ足を運んでもらう機会を設けるとともに、県民、特に若者に県議会を身近に感じてもらい、県議会に対する理解と関心を深めてもらうことを目的として、県内の児童・生徒・学生の文化活動の展示スペース「県議会ギャラリー」を提供した。

展示期間	展示内容
令和5年6月21日 ～7月10日	県立東桜学館中学校・高等学校「未来創造プロジェクト」 探究活動のポスター
令和5年9月19日 ～10月6日	県立米沢興譲館高等学校「米沢興譲館国際探究フォーラム」及び「米沢興譲館サイエンスフォーラムin山大」課題探究活動の英語版ポスターと発表動画
令和5年12月4日 ～12月21日	県内の知的障がい又はその他障がいのある子どもを対象とした「ラッピングバスのデザインになる！やまがたのくだもの絵画コンクール」の入賞作品
令和6年2月20日 ～2月29日	第35回防犯広報作品コンクール防犯ポスターの優秀作品
令和6年3月1日 ～3月19日	山形大学ヤマガタシステムアカデミー「SDGs未来の都市づくり」の模型
	第71回県内高等学校建築設計デザインコンクールの入賞作品

4 インターネット

(1) 県議会ホームページの運営

定例会・臨時会・各常任委員会・3特別委員会・議会運営委員会の概要、地域議員協議会の内容や県議会のトピックスなど、議会の動きをわかりやすくタイムリーに掲載した。

(2) 議会インターネット中継の配信

県議会のホームページ上で、「本会議」、「予算特別委員会」、「決算特別委員会」の生中継及び録画中継を配信した。令和2年2月定例会にスマートフォン等向けの配信を開始して以降、アクセス件数は増加傾向にあり、今年度（令和6年1月31日時点）は14,228件（生中継：5,174件、録画中継：9,054件）となっている。

(3) 会議録検索システムによる会議情報の提供

会議録検索システムに「本会議」、「予算特別委員会」、「決算特別委員会」の会議録を掲載し、ホームページ上で、会議録の検索、閲覧、印刷、ダウンロードに対応した。

5 県議会テレビ広報番組（県政広報番組枠の活用）

(1) YBC「やまがたサンデー5」（15分番組）の活用

放映日	タイトル	主な内容
令和5年7月9日	県議会の新たな4年 ～より開かれた県議会に 向けて～	アナウンサーによる本会議傍聴の様子、開かれた県議会に向けた取り組みの紹介、議長インタビュー
令和5年11月26日	若者に身近な県議会を 目指して	東北文教大学学生と県議会議員との意見交換の様子、開かれた県議会に向けた取り組みの紹介、副議長及び広報・広聴委員長インタビュー

(2) 県政広報番組を活用した定例会の告知

県政広報番組の告知枠を利用し、各定例会の日程と傍聴案内の告知を行った。

6 総合支庁における議会中継

各総合支庁・地域振興局のロビーにおいて、「本会議」、「予算特別委員会」、「決算特別委員会」の中継を実施した。

7 報道機関（パブリシティ）の活用

議場演奏会と議会見学会や生徒・学生との意見交換会等について、県庁記者クラブへ情報を発信した。

8 広聴事業

(1) 生徒・学生と県議会議員との意見交換会

生徒・学生に県議会を身近に感じてもらい、主権者としての政治参加意識の醸成を図ることを目的として「生徒・学生と県議会議員との意見交換会」を開催した。

意向調査において希望があった学校の中から、学校所在地域や過去の開催状況等を考慮して、6校で開催した。出席した議員は、正副議長、広報・広聴委員を中心に1校につき5名の延べ30名で、参加した生徒・学生数は154名であった。

意見交換会は、参加した生徒・学生の発言の機会を確保するため、活動報告や班ごとのワークショップを取り入れるなど、各校の希望の開催方式により実施し、各校が設定したテーマを基に、幅広い内容で活発な意見が交わされた。

■開催概要

開催日	学校名（所在地）	出席議員数	参加者数
令和5年7月13日	県立米沢商業高等学校（米沢市）	5名	23名
令和5年8月29日	新庄東高等学校（新庄市）	5名	38名
令和5年9月7日	県立高畠高等学校（高畠町）	5名	16名
令和5年11月10日	東北文教大学（山形市）	5名	14名
令和5年11月22日	県立鶴岡中央高等学校（鶴岡市）	5名	48名
令和6年1月16日	大原学園山形校（山形市）	5名	15名

（2）山形大学学生との意見交換

若者向け広報誌「県議会ナビ」の編集内容や若者から県議会に興味を持ってもらうための方法等について、山形大学公認サークルY-a i！（ヤイ）の学生と座談会形式で意見交換を行った。

また、コロナ禍を経て4年ぶりにインターンシップで受け入れた学生と若者の政治参加等について意見交換を行った。

3 令和6年度議会広報・広聴事業計画

1 広報誌等

(1) 「県議会だより」の発行（県広報誌「県民のあゆみ」との合冊）

項目	「県議会だより」	「県民のあゆみ」
発行回数	年6回掲載 5月号〔2月定例会分〕 7月号〔企画記事〕 9月号〔6月定例会分〕 11月号〔9月定例会分〕 1月号〔決算特別委員会分〕 3月号〔12月定例会分〕	年6回 隔月奇数月
ページ数	各号見開き2ページ（1月号は1ページ）	各号16ページ
配布先	全戸配布（約40万部）	同左
備考	幅広い年代が見ることから、より分かりやすく伝える紙面となるよう工夫していく。	

(2) 「県議会やまがた」の発行

発行回数	年4回（4定例会毎）
ページ数	各号タブロイド版 4ページ
配布先	県内市町村、主要団体、NPO、大学・短大等（3,500部）

(3) 若者向け広報紙「県議会ナビ」の発行

発行回数	年1回
ページ数	A4版見開き4ページ
配布先	県内高等学校、大学・短大等（約4万部）

(4) パンフレットの配布等

議会についての理解や関心を高めるため、「県議会のしおり」等を議事堂見学者等に配布するほか、様々な媒体を活用し情報発信を行っていく。

2 議場演奏会と議会見学会

県民に県議会を身近に感じてもらい、県議会に対する理解と関心を深めてもらうことを目的として、「議場演奏会と議会見学会」を開催する。

3 県議会ギャラリー

より多くの県民から県議会へ足を運んでもらうきっかけとなることを目指すともに、特に若者に県議会を身近に感じてもらい、県議会への理解と関心を深めてもらうことを目的として、県内の児童・生徒・学生が学校の授業や部活動等で制作した作品の展示スペース「県議会ギャラリー」を引き続き提供する。

4 インターネット

(1) 山形県議会ホームページの運営

定例会・臨時会の概要や各委員会の活動状況等、様々な議会情報を引き続き一元的に掲載していく。また、県議会トピックスとして、上記以外の多様な活動も積極的に発信する。

(2) 議会インターネット中継の配信

県議会のホームページ上で、「本会議」、「予算特別委員会」、「決算特別委員会」の生中継及び録画中継を配信する。

(3) 会議録検索システムによる会議情報の提供

平成4年分以降の「本会議」、「予算特別委員会」、「決算特別委員会」の会議録全文について、検索システムにデータを掲載し、ホームページから閲覧できるようにする。

5 県議会テレビ広報番組（県政広報番組枠の活用）

県政広報番組枠を活用し、議会広報番組の放映を実施する。

(1) テレビ

県政広報テレビ15分番組による議会活動の紹介、会期告知等

(2) ラジオ

「定例会・地域議員協議会」開催の告知等

6 総合支庁における議会中継

各総合支庁・地域振興局ロビーにおいて、「本会議」、「予算特別委員会」、「決算特別委員会」の中継を実施する。

7 報道機関（パブリシティ）、各種広報媒体の活用

報道各社に対し、議会活動の積極的な情報提供を行うほか、県広報広聴推進課所管の広報媒体の活用や市町村等の広報媒体を活用した広報に努める。

8 広聴事業

(1) 生徒・学生と県議会議員との意見交換会

生徒・学生に県議会を身近に感じてもらい、主権者としての政治参加意識の醸成を図るため引き続き開催する。なお、意見交換会の開催にあたっては、学校所在地域や過去の開催状況等を考慮して実施校の選定を行い、参加する生徒・学生の発言の機会を確保するため、活動報告や班ごとのワークショップを取り入れるなど、実施校の希望を踏まえて実施する。

(2) 山形大学学生との意見交換会

若者から県議会に興味を持ってもらうための方法や若者の政治参加を目的に、引き続き開催する。

9 広報・広聴事業の充実に向けた検討等

山形県議会女性・若者参画推進会議の提言（①県民との意見交換の対象拡大、若い世代の意見・要望の吸い上げ ②県議会に対する理解を深めるための来訪機会の創出 ③議会活動の発信）を踏まえ、女性や若者を中心に県民の県議会への関心を喚起するための事業について検討を進め、可能なところから速やかに取組む。

山形県議会広報・広聴委員会委員名簿

委員長	遠藤和典
副委員長	梅津庸成
委員	石川涉
委員	松井愛
委員	石川正志
委員	佐藤文一
委員	相田日出夫
委員	佐藤正胤
委員	相田光照
委員	五十嵐智洋

参 考 资 料

議場演奏会と議会見学会 参加者アンケートとりまとめ結果について

- ◆ 日 時 令和5年9月27日（水）12時45分～15時15分
- ◆ 会 場 山形県議会棟（本会議場、予算特別委員会室、第1委員会室）
- ◆ 応募総数 170名 ⇒ 抽選により137名に入場券を送付
- ◆ 参加者 118人

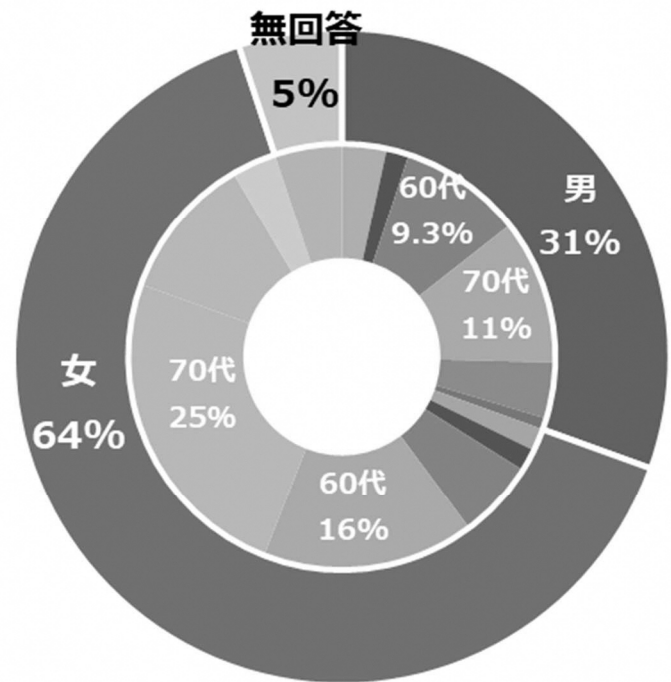
1 住まい

18市町から参加
R元年度から3市町の増

	参加者	
	(人)	(%)
村山地域	64	54.2%
最上地域	12	10.2%
置賜地域	8	6.8%
庄内地域	27	22.9%
無回答	7	5.9%
合 計	118	

2 性別・年齢

- ・ 10代～80代の方が参加
- ・ 男女比は1：2（R元年度は1：3）
- ・ 年齢構成は男女とも60代・70代が多く、合計で全体の6割以上を占める
- ・ 40代以下の参加は6.8%



	10代	20代	30代	40代	50代
男				4	2
女	2			2	7
計	2	0	0	6	9

	60代	70代	80代	無回答	合計
男	11	13	5	1	36
女	19	29	13	4	76
計	30	42	18	5	112

3 何で知ったか（複数回答）

新聞記事の掲載や、市町村・団体等へのチラシ送付などで一定の効果が認められた

〈チラシを見た場所〉 公民館など

〈その他〉 市報など

	(人)
新聞	31
ラジオ	3
HP	19
チラシ	7
知人・会社・団体等の紹介	41
その他	15
無回答	2

4 参加した理由（複数回答）

6割が県議会に興味があって参加

	(人)	(%)
県議会と山響両方に興味がある	46	39.0%
県議会に興味がある	25	21.2%
山響の演奏を聴きたい	37	31.4%
その他	3	2.5%
無回答	7	5.9%
合計	118	100.0%

5 参加しての感想

(1) 予算特別委員会の傍聴

8割が時間を丁度よいと回答する一方、1割が短いと回答。満足との回答は約6割。

時間	(人)	(%)	感想	(人)	(%)
長い	1	1.41%	大変満足	10	14.1%
丁度よい	58	81.69%	満足	32	45.1%
短い	12	16.90%	普通	26	36.6%
合計	71	100.0%	やや不満	3	4.2%
			不満	0	0.0%
			合計	71	100.0%

(2) 議会の概要説明

9割近く以上が時間を丁度よいと回答。満足との回答は約5割。

時間	(人)	(%)	感想	(人)	(%)
長い	0	0.0%	大変満足	6	5.1%
丁度よい	104	88.1%	満足	52	44.1%
短い	0	0.0%	普通	27	22.9%
無回答	14	11.9%	やや不満	0	0.0%
合計	118	100.0%	不満	0	0.0%
			無回答	33	28.0%
			合計	118	100.0%

(3) 議場の見学

9割近く以上が時間を丁度よいと回答。満足との回答は約6割。

時間	(人)	(%)	感想	(人)	(%)
長い	0	0.0%	大変満足	24	20.3%
丁度よい	104	88.1%	満足	51	43.2%
短い	3	2.5%	普通	18	15.3%
無回答	11	9.3%	やや不満	0	0.0%
合計	118	100.0%	不満	0	0.0%
			無回答	25	21.2%
			合計	118	100.0%

(4) 議場演奏会

6割近くが時間を丁度よいと回答する一方、3割近くが短いと回答。満足との回答は約8割で、不満と回答した2名は演奏会の時間の延長を要望。

時間	(人)	(%)	感想	(人)	(%)
長い	2	1.7%	大変満足	66	55.9%
丁度よい	69	58.5%	満足	29	24.6%
短い	32	27.1%	普通	3	2.5%
無回答	15	12.7%	やや不満	1	0.8%
合計	118	100.0%	不満	1	0.8%
			無回答	18	15.3%
			合計	118	100.0%

6 また参加したいか

7割以上が再度の参加を希望

	(人)	(%)
参加したい	86	72.9%
演奏会のみ参加したい	16	13.6%
参加したくない	1	0.8%
無回答	15	12.7%
合計	118	100.0%

7 議場演奏会と議会見学会の感想や県議会に望むこと（自由記述・主なもの）

（1）感想

① 県議会が身近に感じられた、勉強になった

- ・思い切って参加して、有意義に思った。自分の都合で最後まで参加できず、とても残念。
- ・ニュースで見ている場所に実際に来ることができて良かった。これから県議会のニュースを見るときに姿勢が変わるように思う。
- ・演奏会が目的だったが、議会のことや建物のことなどを知れて勉強になり楽しかった。
- ・議会について、建物の中や詳しい内容を知ることができて、おもしろかった。
- ・演奏会に盛り上がる県議の方たちに親しみを感じた。
- ・県庁、議会に入る機会がなかったが、今回初めて見学に参加でき、県庁・議会が身近に感じられ大変良かった。

② 今後も実施してほしい、また参加したい

- ・初めて参加した。とてもよい取り組みだと思う。これからも続けていただきたい。
- ・とても貴重な経験になった。機会があればまた参加したい。
- ・ぜひ、傍聴したいと思った。

③ その他

<予算特別委員会の傍聴と議会見学会>

- ・私達が選んだ議員の皆さんの仕事振りを初めて見せていただき、とても興味深かった。
- ・見学することで、県政が身近に感じられた。
- ・委員会では、もう少し白熱した意見交換があると、山形も発展するのかなと思った。
- ・傍聴の時間をもう少し長くしてほしい。
- ・議員の居眠りや私語が目立った。

<議場演奏会>

- ・切ない調べ、明るい演奏に、毎日の疲れを忘れ、心が洗われたよう。
- ・演奏会を議席で聞きたかった。
- ・予定時間を守ってほしい。

（2）県議会に望むこと

- ・県民の生活がよりよくなるため、山形県発展のため尽力していただきたい。
- ・議員43名の力を合わせて、山形県の発展に取り組むことを心から期待。
- ・議員の皆様頑張ってもらって山形県を発展させてほしい。

（3）その他

- ・県議会はあまり身近なものでなく選挙で議員を選んで終わりという感じが否めない。県民の意識も変えなければいけないが、県議会は敷居が高いというか、気軽に来れる場所でもない。このような機会が増えることを望む。

令和5年度 生徒・学生と県議会議員との意見交換会 の実施状況について

I 総括

1 実施校

生徒・学生と県議会議員との意見交換会は、平成27年度の試行を経て、28年度から開催している。令和5年度は、意向調査において希望があった学校の中から、学校所在地域や過去の開催状況等を考慮して、6校で実施（学校開催5校、議事堂開催1校）し、正副議長、広報・広聴委員を中心に延べ30名の議員が意見交換会に出席した。

開催日	学校名	出席議員数	参加者数	開催場所
7月13日（木）	県立米沢商業高等学校	5名	23名	学校（米沢市）
8月29日（火）	新庄東高等学校	5名	38名	学校（新庄市）
9月7日（木）	県立高畠高等学校	5名	16名	学校（高畠町）
11月10日（金）	東北文教大学	5名	14名	議事堂
11月22日（水）	県立鶴岡中央高等学校	5名	48名	学校（鶴岡市）
1月16日（火）	大原学園山形校	5名	15名	学校（山形市）
計6校		30名	154名	

2 意見交換の概要

参加した生徒・学生の発言の機会を確保するため、活動報告や班ごとのワークショップを取り入れるなど、各校の希望の開催方式により実施し、活発な意見が交わされた。また、県議会への理解を深めていただくため、一部の学校においては、山形県議会の概要等説明も合わせて行った。

【意見交換の項目】

（1）活動報告＋質疑応答形式

① 県立米沢商業高等学校

【活動報告】

- ・「紅色ビジネス大作戦 ～やまがたに馴染む色は何？～」 （商業研究部）

【質疑テーマ】

- ・上記の活動報告（商業研究部）
- ・魅力ある米沢にするには（生徒会役員）

(2) ワークショップ形式

① 新庄東高等学校

【全体テーマ】 持続可能な山形県に向けて

- 1班「防災・災害の避難」、2班「若者の流出」、3班「少子高齢問題」
- 4班「今後の観光政策」、5班「まちづくり」

② 県立高畠高等学校

【全体テーマ】 山形県の将来について

- 1班「山形県の人口を増やすには」、2班「山形県の教育について」
- 3班「山形県の『若者』を定着させるためには」
- 4班「山形県の観光をより発展させていくためには」

③ 東北文教大学

【テーマ】

- 1班「魅力ある山形県にするには」（人間科学部人間関係学科）
 - 2班「保育・教育の現場における課題について」（同子ども教育学科）
- ※議事堂開催につき、終了後に議場見学を実施した。

④ 県立鶴岡中央高等学校

【全体テーマ】 若者の未来 山形の未来

- 1班「子育て支援」、2班「人口減少・地域活性化」、3班「働き方」
- 4班「若者の政治参加」、5班「若者の主張」

(3) 質疑応答形式

① 大原学園山形校

【テーマ】

- ・山形県内の人口減少（若者の県外流出）について
- ・政治のデジタル化について
- ・交通政策・観光政策について

3 参加者アンケート結果の概要

(1) 意見交換会に参加した感想

参加した生徒・学生からは、議員の考えや県の取組状況等の話を直接聞いたり、意見や疑問点を伝えたりすることができたとして、好意的な意見が多く寄せられ、満足度が高いものであったことがうかがえる。課題としては、意見交換を深めるためには時間が短かった、打ち解けて話すまでに時間がかかったため、班ごとのアイスブレイクがあってもよかったなどの意見があった。

【主な感想の内容】

① 議員との意見交換について

- ・活動報告に対して思いつかない的確な意見をいただき、とても勉強になった。一方、学校側の発言者が限られていたことは改善する必要があると思った。
- ・難しいテーマであったが、高校生にも理解できるように、親身になって分かりやすく話をしてもらえてよかった。
- ・内容が難しかった。せっかく素晴らしい政策であっても、それが自分にどう関係し、恩恵を受けられるかがわからないと意味がないと感じた。
- ・ホームページ等では分からなかったことを直接聞けるのは良かったが、時間が短く意見交換が中途半端になってしまったのが残念だった。
- ・これまで自分たちの考えや思いを議員へ伝える場面がなかったので、貴重な機会だった。真剣に話し合うことで大人と関わる喜び、楽しさを感じた。意見を県の施策に生かしたいと言われて嬉しかった。
- ・自分たちが困っていることを直接伝えることができ、それに対して県議会がどう動いているかを聞くことができた。一般論ではなく、具体的な対策について聞いて貴重な機会であった。
- ・意見をしっかり聞いてもらった後に、こうしたらもっと良くなると助言してくれていい意見交換になった。私たち一人ひとりの考え方で社会が変わっていくものだと思った。
- ・議員と話をすることで、自分たちの選択で将来がどう変わってくるかを深く考えることができた。山形県の課題について考えることができ、自分なりの意見をもっと深く考えられるようになりたいと思った。
- ・自分が住む地域のことをよく知らないことがわかった。これからは他人事にせずに関心を持っていきたい。
- ・自分の進路を考える上でも参考になった。これから地域を支えるのは自分たちなので貢献できるように頑張りたい。
- ・施策を提案することは可能であるが賛同する人が少ないと意見が通らないという議員の苦勞も知ることができた。

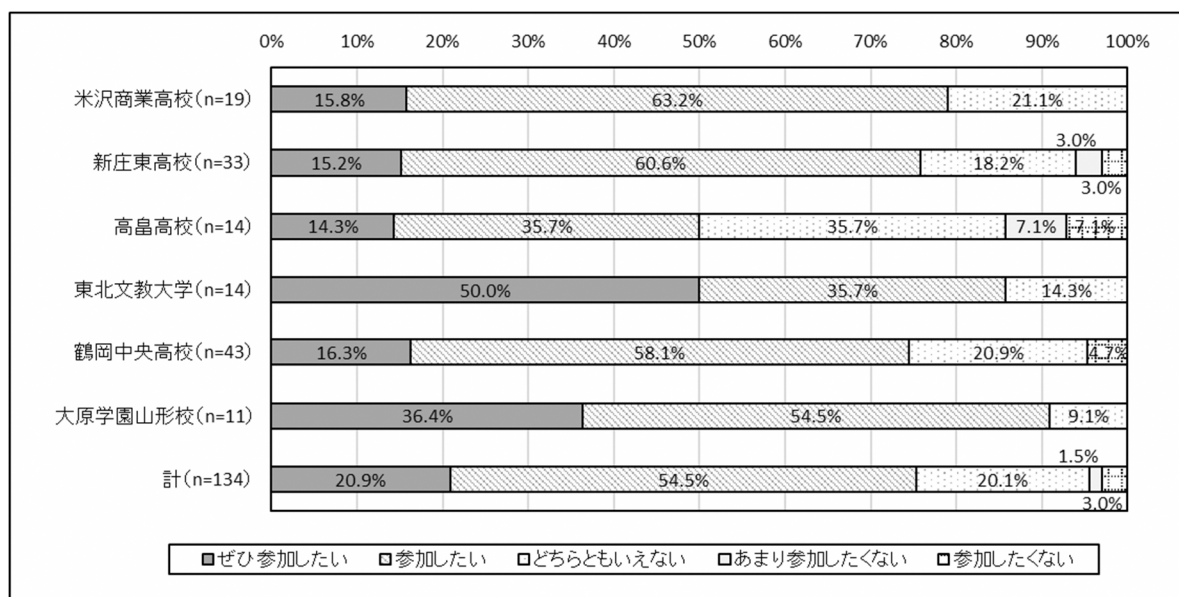
② 政治・選挙や県議会への関心について

- ・ 県議会議員と聞いて、厳格なイメージをもっていたが、想像していた以上に気さくで優しく、話しやすく身近に感じることができた。イメージが変わった。
- ・ 山形県の政治について、普段はあまり考えることがなかったが、意見交換会を通して県や政治の状況を知ることができ、いい機会になった。
- ・ 地方での政治参加について、話を聞くことができた。18歳になり、新聞を読んだり、地域のニュースに触れる機会が増えたと思うが、今後も積極的に政治に参加していきたい。
- ・ 政治の授業で政治の仕組みを勉強したが、自分たちの生活に関わってくることまでは学んでこなかった。政治が自分に大きく関わってくることを感じられないと政治への関心は高まらないと思う。
- ・ 小学校から政治についての教育に取り組んで、より深い知識と関心を醸成していったらどうか。
- ・ 若い世代の人の政治参加が少ないことが分かった。もっと多くの若者が投票すれば、自分たちの意見も反映してもらえるのかと思う。
- ・ 18歳になったので選挙の際はなるべく投票に行きたいと思った。
- ・ 若者だけではなく他の年齢層の方も含めて、グループワーク等の議員に意見を直接伝える機会を作ることで政治への関心が高まるのではないかと。

(2) 今後の参加希望について

各校の回答を集計すると「ぜひ参加したい」と「参加したい」で75.4%を占め、全体として好意的に受け止められている。

(問) 同様の機会（実施は学校・教員）があったら参加を希望しますか。

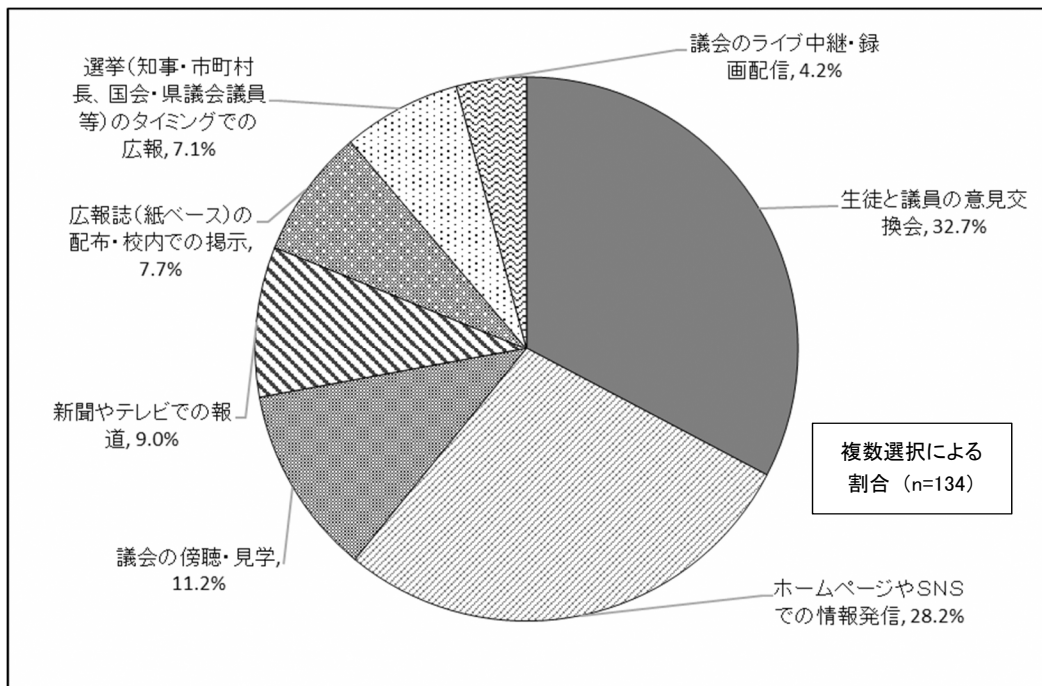


(3) 若者に対する効果的な広報について

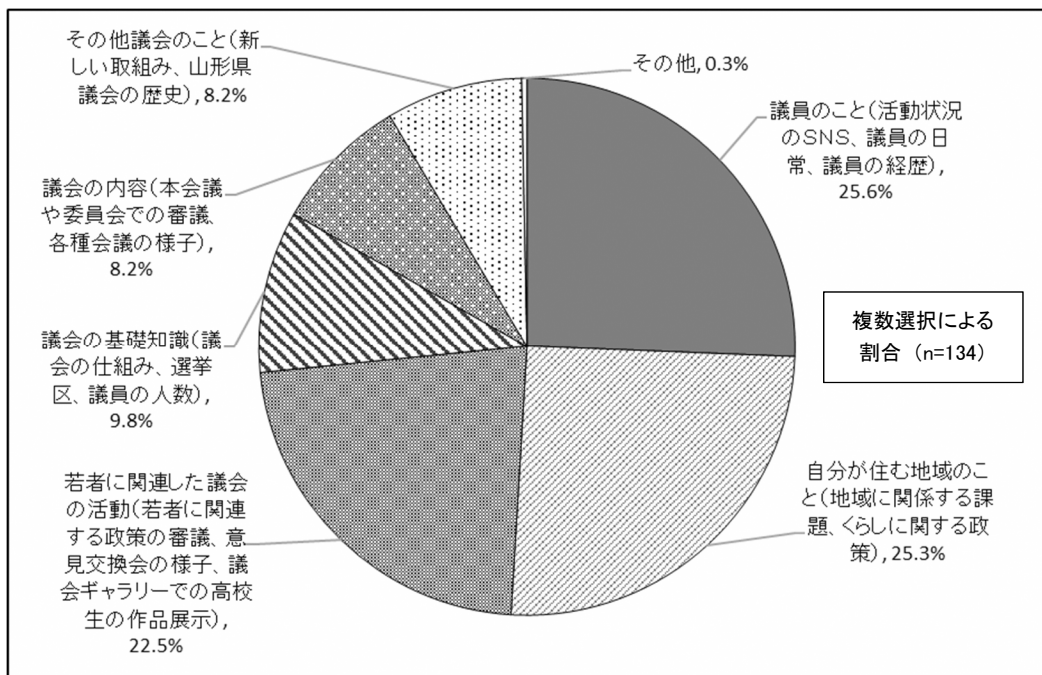
広報手段については、意見交換会の拡充を求める意見が最多で、次いで「ホームページやSNSでの情報発信」で、この2項目で全体の6割を占めた。

興味・関心を持ってもらえる内容については、「議員のこと（活動状況のSNS、議員の日常、議員の経歴）」と「自分が住む地域のこと（地域に関する課題、暮らしに関する政策）」がほぼ同数で、合わせて5割を占めた。

(問) 若者に対して、どのような広報（周知・情報発信）が効果的だと思いますか。



(問) どのような内容だと若者に興味・関心を持ってもらえると思いますか。



II 学校ごとの実施状況

1 県立米沢商業高等学校

開催日時	令和5年7月13日（木）15時30分～17時00分
開催場所	山形県立米沢商業高等学校（米沢市）
出席議員	小松伸也、佐藤文一、相田日出夫、遠藤寛明、青木彰榮
参加者	商業研究部及び生徒会役員 23名
意見交換の概要	<p>商業研究部の活動発表「やまがたのイメージカラーを紅色にする提案」、生徒会役員の「魅力ある米沢にするには」をテーマに生徒と議員が意見交換を行った。</p> <p>【主な意見等の内容】</p> <ul style="list-style-type: none">・イメージカラーを決めれば、様々なシーンで活用されてビジネスチャンスが広がるのではないかと。紅花を活用した商品開発の結果を踏まえて、山形県のイメージカラーを紅色にしてはどうか。・令和4年8月豪雨で米坂線が不通になり、バス代行が行われており、通学で苦勞している。後輩のためにも復旧を進めてほしい。・地域における若者の減少、流出を止めるにあたり、県外で結婚しても子育て環境が充実しているのであれば、地元に戻ってくると思う。統合により使用されていない小中学校を子どもが遊べる施設に改修してはどうか。・2年次に進学予定者も含めた企業見学を行っている。地元の中小企業を知る機会となり印象に残るため、若者が戻ってくるきっかけになるのではないかと。

2 新庄東高等学校

開催日時	令和5年8月29日（火）13時30分～15時00分
開催場所	学校法人新庄学園新庄東高等学校（新庄市）
出席議員	森田廣、松井愛、佐藤正胤、吉村和武、加賀正和
参加者	生徒38名
意見交換の概要	<p>「持続可能な山形県に向けて」を全体テーマとして、①防災・災害の避難、②若者の流出、③少子高齢問題、④今後の観光政策、⑤まちづくりの5班に分かれてワークショップ形式で意見交換を行った。また、生徒が各班で取りまとめた内容を発表した。</p> <p>【主な意見等の内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害時に確認するホームページがいろいろあるので、慌てることになると思う。また、防災対策は県と市町村の連携を密にしてほしい。 ・自分が住む最上町から新庄市を経由して、山形市に電車で行くためには時間がかかる。電車の本数を増やすことは難しいとしても、ダイヤを見直しして乗継ぎを改善してほしい。 ・若者の流出を減らすために育児しやすい環境をつくること、子どもを生み育てたくなる政策が重要である。自分が親の立場になると考えてみて、金銭的なサポートや相談を受けられる体制、職場環境等を充実させていけばよいのではないかと思う。 ・地元への関心がないことが課題であるため、まずは地元を知ることが大切である。SNSで情報を拡散することで、観光客も増えると思う。また、観光を産業として捉えると、旅館を支える食料品店や電車・タクシー等の存在も大切で、観光がまちづくりにもつながることが分かった。 ・全ての施策は最終的にはまちづくりにつながると思う。教育の観点からは、全国学力テストの山形県の順位があまりよくないが、親の価値観等を含めて周囲の環境をつくっていくことが必要。

3 県立高畠高等学校

開催日時	令和5年9月7日（木）10時50分～12時40分
開催場所	山形県立高畠高等学校（高畠町）
出席議員	小松伸也、阿部恭平、梅津庸成、遠藤和典、五十嵐智洋
参加者	生徒16名
意見交換の概要	<p>山形県の将来について、①人口増、②教育、③若者定着、④観光発展の4班に分かれてワークショップ形式で意見交換を行った。また、生徒が各班で取りまとめた内容を発表した。</p> <p>【主な意見等の内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人口を増やしていくためには東京で山形の野菜を売るイベントを開催するなど、積極的に魅力を発信する必要があると思う。 ・人口増には交通網を整備しなくてはならない。電車の本数を増やすだけでなく、接続するバス等の目的地までのアクセスや地元の人たちの利便性を考えた仕組みを考えなければならない。 ・校則が今の時代に合っていないと思う。私立高校は比較的自由な校則になっていると感じるが、公立高校も学校の押し付けではなく生徒が話し合って校則を変えていくべき。 ・先生の労働時間を見直す必要があると思う。教育委員会は教職員の労働時間を見直すためにアンケートを取り、労働時間の改善や部活動の地域移行の促進に取り組んでほしい。 ・若者定着のために山形の魅力を発信する方法として、インスタグラムのストーリーズ機能の利用やインフルエンサーの活用が有効。しかしながら、自分たちが山形のいいところを知らないことが欠点になっている。 ・山形県の国際交流が遅れていると感じる。コロナで交流が停止してしまったこともあるが、国の支援等も求めながら取り組んでほしい。 ・観光PRでSNSによる広報活動をもっと活発にしてほしい。日本人が見たいものと外国人が見たいものは違う。高畠町の町民は優しい人が多いので、人を観光資源として活用したり、里山が外国人に魅力的に見えることを広めて、効果的な発信方法を考えてほしい。 ・若い人を高畠町に呼ぶには「美味しいものがある、かわいいカフェやお店、写真映えするポイントがある、賑やか」等若者のニーズを捉えた発信が重要。

4 東北文教大学

開催日時	令和5年11月10日（金）16時45分～17時45分
開催場所	山形県議会議事堂
出席議員	小松伸也、石川正志、鈴木学、今野美奈子、相田光照
参加者	学生14名
意見交換の概要	<p>①魅力ある山形県にするには（人間科学部人間関係学科）、 ②保育・教育の現場における課題について（同子ども教育学科）の2班に分かれてワークショップ形式で意見交換を行った。また、学生が各班で取りまとめた内容を発表したほか、終了後に議場を見学した。</p> <p>【主な意見等の内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山形県の良いところは人や風土。不便なところもあるが、様々なことが揃っていると思う。魅力ある県にするには、PRの方法を工夫する必要がある。 ・公共交通機関について、人口減少とのバランスを取りつつ、若者や高齢者等の当事者のニーズに合わせて充実させていくことが重要である。 ・観光客を迎え入れる場面等でのコミュニケーション能力の向上が大切である。 ・小学校や保育園・幼稚園は、人手不足で労働時間が長く、休憩を取りにくいこと等もあると思う。多忙な状況により、モチベーションや教育・保育の質が低下する懸念がある。 ・小学校での教育実習に参加したが、育休・産休の制度があっても代替となる教員がいない状況で、学校現場は厳しい状況だと感じた。ICTの活用により事務作業等の負担軽減を進める必要がある。 ・保育園で連絡アプリを導入している事例があり、子どもの様子をスマホで確認したり、登園確認を簡単にすることができ、保護者の安心や園との円滑な連携につながる。こうした取り組みを広げていくことが重要である。

5 県立鶴岡中央高等学校

開催日時	令和5年11月22日（水）10時45分～11時45分
開催場所	山形県立鶴岡中央高等学校（鶴岡市）
出席議員	石川渉、伊藤香織、佐藤文一、遠藤和典、菊池文昭
参加者	生徒48名
意見交換の概要	<p>「若者の未来 山形の未来」を全体テーマとして、①子育て支援、②人口減少・地域活性化、③働き方、④若者の政治参加、⑤若者の主張の5班に分かれてワークショップ形式で意見交換を行った。また、生徒が各班で取りまとめた内容を発表した。</p> <p>【主な意見等の内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育て支援のため、教育費の負担を減らす取り組みが必要。また、公園の整備に関しては設置者と話し合いを行っていくことや、署名活動等により世論を高めていくことが重要。 ・地域活性化に向けて、首都圏にはない山形にあるものの魅力を周知する取り組みとともに、住んでいる人が地元を誇りに思えるようにしていくことが大事。 ・働く際の各種ハラスメントの防止に向けては、全体の実態を把握した上で、国や県等に設置されている相談窓口を活用していくべき。 ・多くの若い女性が県外に出て戻ってこないことについては、地元に戻るきっかけがないことが大きな要因であると思う。 ・若者の政治参加を進めるため、インターネットによる選挙投票により手続きを簡略化できれば投票率が伸びるのではないか。 ・若者の主張として、町中に休憩できるスペースをつくることに関して、実現できるように要望書や署名活動を行い訴えていく方法がある。

6 大原学園山形校

開催日時	令和6年1月16日（火）13時40分～15時10分
開催場所	大原簿記情報ビジネス医療福祉専門学校山形校 大原スポーツ公務員専門学校山形校（山形市）
出席議員	森田廣、橋本彩子、石川正志、石塚慶、相田日出夫
参加者	学生15名
意見交換の概要	<p>①山形県内の人口減少（若者の県外流出）、②政治のデジタル化、③交通政策・観光政策をテーマに、質疑応答形式で意見交換を行った。</p> <p>【主な意見等の内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県内にどのような企業や仕事があるかについて、若者にあまり認知されていないと思う。情報発信を強化するなどしてもっと地元のことを知ってもらう取組みが必要である。 ・TeamsやZoom等のオンライン会議システムを学校でも使用しており、社会の中でも利用が進んでいる。政治においてもどんどん活用していくべきではないか。 ・若者が選挙に行かない理由として、投票所に行くことが大変であるからということもあると思う。投票のデジタル化を進めれば投票率の向上につながると思う。 ・公共交通が不便であるために、観光誘客に結びついていない地域が多くあり、もったいないと感じている。インバウンドの観光客やリピーターを多く呼び込むためにも交通網の整備・充実が必要ではないか。 ・飲食店でアルバイトをしている。そのエリアは交通の便がよく、人が多い地域であると思うが、その割には飲食店数が少ないと感じている。人が集まる場所に飲食店を増やして、地元の食べ物や県産酒等を提供して地域にお金を落としてもらう仕組みづくりが重要ではないか。

